

ノートルダム清心中学校

入試科目	算数	国語	理科	社会	個人面接	総合
試験時間	50分	50分	30分	30分	2分	
配点	100点	100点	60点	60点		320点
受験者平均	72.4点	66.9点	32.8点	37.3点		
合格者最低点						208点

算 数

- | | | | | | | | | |
|---|----------|-------------|-------|--------|----------|---------|---------|---------|
| 1 | (1)小数の計算 | (2)小数・分数の計算 | (3)速さ | (4)仕事算 | (5)つるかめ算 | (6)差集め算 | (7)平面図形 | (8)立体図形 |
| 2 | 平面図形 | 小問数3 | | | | | | |
| 3 | 速さ | 小問数3 | | | | | | |
| 4 | 売買損益 | 小問数3 | | | | | | |

今年度から算数①と算数②を分けずに、一科目 50 分 100 点で実施しています。劇的に変わったところはないので、面食らった受験生はいなかったはずです。むしろ時間の弾力性が高まったうえに、大問ごとに計算用スペースが設けられたので解きやすく感じたはずです。

1が去年までの算数①に該当します。計算問題2問と、一行問題6問の構成です。例年よりも一行問題の数が2問少なくなっています。(3)～(8)は速さ、仕事算、つるかめ算、差集め算、平面図形(正三角形を折ったときの角度)、回転体の体積、といわゆる受験算数の王道ともいえる単元から出題されています。問題数が減った分難易度が高くなつたとい

うことではなく、基本的な問題が多いままなので受験生にとっては時間的余裕が生まれています。

2は平面図形の問題です。長方形の形をした広場の周りの通路について考えます。(1)は半径の分かっている四分円×4の面積を求める問題。(2)は、4つに分かれた縦の長さが等しい長方形を、1つの長方形だと捉えて、横の長さを求める問題。(3)は(2)さえ正答できなければ比の基本を使う問題です。(1)からしっかりと(3)まで誘導してくれていますので、素直に解いていけば高得点が狙える大問です。

〔3〕は速さの問題です。上り坂や下り坂、平地があるのでその都度、速さの変化を考える必要があります。(1)は「最初は下り坂 400mで速さは分速 80m、次は平地 2400mで速さは分速 80m」ということを問題文から読み取れているかどうかを問われている問題です。(2)は帰りの時間、(3)は 20 分でどこまで往復できるかを聞かれています。「ここからここまで何分かかる」というのを調べていく必要があります。

〔4〕は売買損益の問題です。典型的な「原価がいくらで、利益が何割で…」というような問題ではありません。毎日何個かの仕入れがあり、在庫をなくすには毎日何個ずつ売ればよいかを考えていけば(2)までは解けます。仕入れ以上に売れば在庫が減る、という大人にとっては当たり前の

感覚が身に付けられているかどうかを問われています。(3)は、考え方自体は難しくないのですが計算がちょっと大変です。比を使えたら少し楽になりますが、持ち時間の長さを考慮するとそのまま計算しても差し支えない問題です。

例年以上に解きやすい問題が多いです。一行問題だけではなく、各大問の(1)(2)も解きやすい問題が多いです。この難易度で合格点の目安となる受験者平均点を突破する、という観点でみると典型的な問題を確実に抑える=「しっかり努力する」ということにつきます。使用しているテキストに載っている問題を確実に理解する。理解した知識を引き出せるように、総合演習をしっかり積む。地に足つけた受験勉強が合格には必要でしょう。

国語

- 一 濑尾まいこ『優しい音楽』（物語文 約4800字 小問数7 うち記述1問）
- 二 平田オリザ『ともに生きるための演劇』（説明文 約5400字 小問数8 うち記述1問）
- 三 漢字の書き取り／慣用句（小問数15）

2025年度の国語は、昨年度の形式と同じ大問3題の構成となりました。内訳は、大問一が物語文の読解問題で、大問二が説明文の読解問題、大問三が漢字の書き取り問題と慣用句の問題となっていました。出典された文章の文字数は昨年度に比べて大きく増えました。具体的には、2024年度に出題された2種類の素材文の総文字数はおよそ 8000 字であったのに対して、今年度は 10000 字を超えたほどです。

清心中の国語は、記号選択の問題が多く、しかも選択肢の各文が長いという特徴があります。この特徴は、2025年度の入試問題でも見られました。一方で、記述式問題は、例年見られた 100 字前後の長文で答えを書かせるものは出題されず、30 字以内の問題と 60 字以内の問題が 2 題

出ただけでした。また、読解問題だけではなく漢字や語句に関する問題も例年通り出了しました。漢字の書き取り問題や文章中の語句の意味を選ぶ問題は毎年ありますが、慣用句が昨年と同様に出題されました。

大問一の文章は、瀬尾まいこ『優しい音楽』の一部で、主人公のタケルは、恋人である千波の亡くなった兄にそっくりであり、そんな兄に代わって千波の家族のために努力するタケルの視点で描かれた、少し不思議な関係だけれども登場人物たちのあたたかい心の交流が主題となっている話でした。問一は語句の意味を答える問題です。言葉の意味を知つていれば簡単に正解が選べる問題ですが、それが確かではない場合は、文脈より適切な意味を考える力が求められました。問二・問三・問五は

記号選択の問題で、さらに全てが理由説明の問題となっていました。主人公のタケルやその恋人の千波の心情を読み取り答える問題ばかりだったので、話の展開を追いながら、場面を正確に捉えられていたかどうかが正解を決める鍵となりました。唯一の記述問題は問四です。千波の父の心情を30字以内で説明する問題で、文章には書かれていない父の思いを場面の状況とタケルの気づきから考えて言葉にしていく必要があったので、難易度は高かったです。

大問二の文章は、平田オリザ『ともに生きるための演劇』の一部でした。「演劇」の起源について、人類の歴史から考察を始め、「演劇」の役割について結論づけていく展開の文章となっていました。素材文は全部で5つの意味段落に分けられており、設問がそれぞれの意味段落の要点を問うものとなっていたのが特徴的な出題の仕方となっていました。1つだけ出題された記述問題も、5つ目の意味段落の要点をまとめて答えが書けるものでした。要点を捉える力やまとめて表現する力が求められるのは、清心中の国語では例年試されるものです。

大問三は漢字や語句の問題でした。問一は漢字の書き取り問題です。熟字訓の「八百屋」が出題されました。また、例年、同音異義語（「感傷」）や同訓異字（「写す」「測る」）、そして、小学生には馴染みのない言葉（「悪戯身につかず」）、さらに小学生が間違えやすい漢字（「裏」「券」「著」）が出されるのが特徴です。問二は、5つの慣用句の意味を選んで答える問題でした。出題された慣用句に関しては、どれもよく使われている基本的なものばかりでした。

最後に、ノートルダム清心中学校の国語の問題を解くための必要なことを挙げます。選択問題では、細かな表現も見落とさず、本文と選択肢を照らし合わせられる丁寧さが求められます。また、記述問題では、問題が求めていることを正しく捉える読解力と、それを適切に表現するための語彙力と要約力が必要です。日ごろから、漢字や語句の知識を増やし語彙力を高めていくことや、問題文をよく読んで作問者の求める答えを出す練習、さらに自分で考えたことを表現する練習をしっかり積み重ねておきましょう。

理科

- 1 化学分野から、I. 5種類の水溶液の分類
II. スチールウール（鉄）とうすい塩酸からの気体の発生実験 に関する問題 小問数 8
- 2 地学分野から、I. 雲のでき方と水蒸気量
II. 大気中の水蒸気の流れ に関する問題 小問数 7
- 3 生物分野から、こん虫が嫌う物質と好む物質についての実験 に関する問題 小問数 9
- 4 物理分野から、光の反射とフーコーの光速測定 に関する問題 小問数 6

物理・化学・生物・地学から1題ずつの大問4題の構成で、試験時間30分、配点60点の形が完全に定着しました。難易度は以前に比べると易しくなり、受験生の単元学習の定着度合いを正しく判断できる問題が

増えています。また、資料や実験結果を読み取ることで思考、判断する問題が近年の同校における理科の入試問題の特徴にもなっています。これらの問題は知識だけでは解答できないものが多く、知らなくても問題

を読んで理解する練習が必要になります。全体としてのレベルは高く、高い点数を取ることは難しくなっています。30分の限られた時間の中でいかに勇気をもって次に進むタイミングを判断できるかがカギになってきます。過去問演習や実戦形式の問題演習を通して知識力や思考力とともに、こういった判断力を身につけておきたいです。

① Iは5種類の水溶液の分類に関する問題で基本～標準問題になっています。確実に得点しておきたいところです。単に水溶液の性質を覚えるだけでなく、実験の操作に関しても知識を定着させておきましょう。IIは鉄を塩酸で溶かしたときの気体の発生に関する問題です。問5を解答するには塩化鉄が黄色であることを知識として知っておく必要がありますが、知らない受験生が多くいたと思われます。教科書改訂前には広大附属中でも出題されたことがあります、より高いレベルを目指す受験生なら知っておくべきことかもしれません。

② 問1は雲のでき方に関する空欄補充問題ですが、選択問題になっているので難易度は高くありません。問2は湿度計算の問題ですが、知らない受験生でも説明をよく読めば解答できたと思われます。問3は「線状降水帯」を問う語句問題で漢字5字指定になっています。近年耳にするようになった言葉です。天気予報やニュースなど、興味を持って見て

おく必要があります。

③ 問1～問3は植物の種子に含まれる養分に関する問題、人体の血液循環に関する問題、こん虫の変態に関する問題等、基本～標準の生物の知識問題になっています。問4からはコーヒーノキの葉にカフェインが含まれている理由やゴキブリが好む物質・嫌う物質、ゴキブリ駆除剤に含まれる物質に関する問題で一見すると難易度が高そうに見えますが、与えられた資料を丁寧に読めば、比較的容易に答えが出るようになっています。ただし30分という試験時間の中で的確に読解するためには日頃から実戦問題で初見の資料を読解する練習をしておく必要があります。

④ 光の反射と光速の測定に関する問題で、難易度は高くなっています。問2は鏡を回転させたときに、入射角・反射角がどう変化するかを問う問題で、これをきちんと解くことができれば、それをを利用して問3が解けるようになっています。とはいっても、ここまで問題で時間を使いすぎて、ほとんど解けなかったという受験生も少なからずいたのではないかでしょうか。

広島の女子中学校の最高峰である同校の合格ラインを突破するには、なるべく早い時期に知識を定着させ、実戦形式の問題に慣れるように少しでも多くの問題演習をしておくことが必要です。

社会

- ① 《地理》日本地理に関する総合問題 小問数13
- ② 《歴史》弥生時代から昭和時代(戦後)の総合問題 小問数14
- ③ 《公民》日本国憲法・三権分立・地方自治・時事問題 小問数13

ノートルダム清心中学校の社会は試験時間30分・配点60点です。

今年度の問題構成は大問3つ。例年、大問4～5の構成です。問題数は約40問。試験時間を鑑みると問題数は適正であり、「解答時間が足り

ない」ということはありません。ただし、オーソドックスな問題だけでなく、資料・史料を読み取っての記述や時事を絡めた問題を出題します。

① 日本地理に関する総合問題

日本全体を示す地図を用いての領土に関する問題。地形図の読み取りや日本の貨物輸送の変化を表す棒グラフから輸送手段を答える問題。説明している府県を地図中の記号で位置を答える問題など答えやすい出題です。記述問題については、問5「昼間人口が夜間人口を上回っている理由」、問6「信濃川(日本の河川)の外国の河川と比べた特徴」など、題材はよく見る問題です。しかし、問5は広島市内の区ごとの地図からの読み取り、問6は「平野」という指定語句を用いての説明を求められます。つまり、条件が加えられているので、単純に「日本の川は外国の川に比べて長さが短く、流れが急」とテンプレートの解答をしてしまうと誤答になります。きちんと蓄えてきた知識を問題で問われている形に置き換えないといけません。

② 弥生時代から昭和時代(戦後)の総合問題

前半は、比較的答えやすい問題です。ただし問6「徳川家康の説明」で誤っているものをすべて選ぶ問題。問7江戸時代の農具である「とうみ」の役割を答える問題。問9「日本地図中のおもな戦闘のあった場所と兵の動きを示した矢印」をもとに戦いの名称を選択する問題。問11「八

幡に製鉄所がつくられた理由を、3つの資料を関連づけて説明する問題。これらに関しては、題意を理解したうえでの解答が求められました。

③ 日本国憲法・三権分立・地方自治・時事問題

日本国憲法第25条の条文の空欄補充。衆議院の特徴や裁判の仕組み、地方公共団体と国の予算の内訳、関税についての記述問題は答えやすい出題です。また、時事問題(新紙幣・半導体の国産化・温暖化)についても奇抜な問題ではありませんでした。

【ノートルダム清心中学校「合格のカギ」】

① 地図帳や資料集を活用する学習する癖をつける。

「テキストの情報を丸暗記」だけではなく、視覚的に理解することを取り入れて理解を進める。すると、資料の正確な読み取りや正確な語句の理解が進みます。

② 時事に关心を持ち、もう一歩掘り下げる学習する。

今年度でいうと「新紙幣」がそれにあたります。描かれている人物についての把握だけでなく、そもそも紙幣を発行する機関が日本銀行であることを知らなければ解答できません。日常的に興味をもって課題や問題点を持つことを大事にしましょう。